1、2 準備

· N: 自然数全体( , Set)

2:整数全体

(I)

• Q 、有理数全体

·R·史数全体

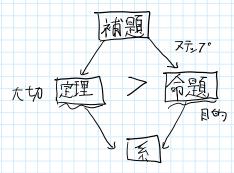
. C、複素教全体

·定義 -> Def (Definition) ·定理 -> Th (Theorem)

·命題 → Prop. (Proposition)

· 補題 → Len

· \$ -> Cor.



- 注意 → Ren

- · へのおお → S.t. ~ · 任意 の : ∀ · 存在 : ∃ ·含意 : →

- ・したがっていい。
- · \$t" \$it":--;
- 2、論理と命題

Def 2.1

命題とは真(True)であるか: 偽(False)で おおかか家観的に判断できる文はおりりる

す)ので

おるかか多観的に判断できる文(おるいはま)のこと、

今題Pが真であることを丁、偽であることを Fで表す、この丁やFをPの真理値という。

例 2.2 P: 「1 < 2 s. T 命題 発: 「1 < o」: F 命題

*別* 2.3 *P:「/00は 大きい 数である」* 命題でない。 主観に基づく.

2.1.1 複合命題

Def 2.4 P: 命題

このとき、ファン「アルTでは、という文となて、 Pは T.F のいずれか ~~ ファ、命題 (Pの否定とび)

10 2.5 : P: [+1 + 3] : F

Det 26

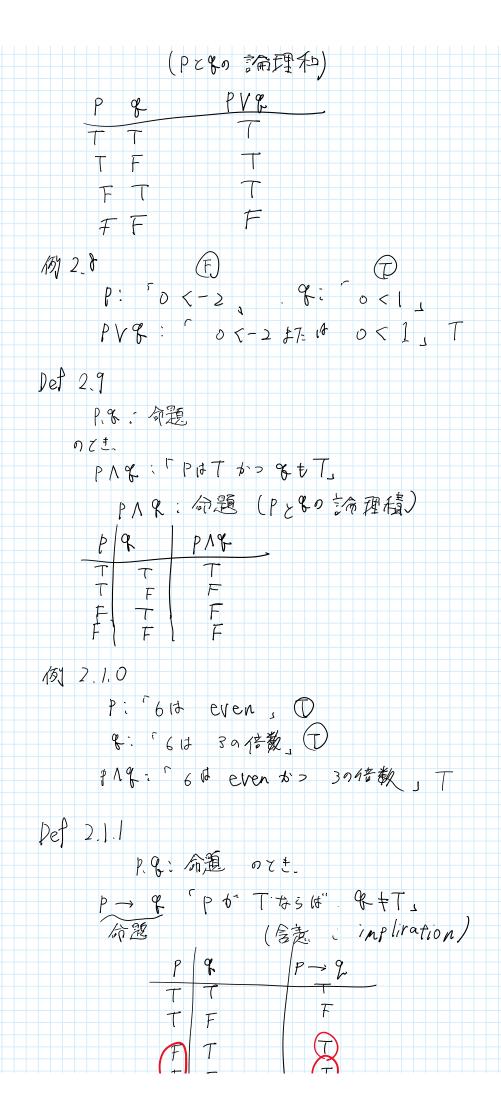
歌声12 がける 矛盾 こは、命題 P とその 万定 コアが 同時 以下と 証明されること, Def 2-7

P. 6: 命題

このとせ.

PV & Pla T Eta. 218 T,

とおて、PV分;命題 (Pと名の論理和)



烟1.2.1.2 P: 「丰」。 6: 「Z 作有理 数」 p→で「1キ」ならは、「」は有理数、 2.2 命題論準 注 2.1、3

¬P.PVな、PAな、P→なは、P.なを変数と切って見ることができる.

ありえば

PV(P.4) = PV4 (P.9:命題)

1€ (ct

 $P(P,q,r) = PV(q\Lambda r)$ 

のおれ、命題を変数とお論理が作れる.

Pet 2.1.4

P.Q: N個の命題 P., ···· Pn を変数で移論理式

30 Kt. def P(P, --- Pn) -- Q(P, --- Pn)

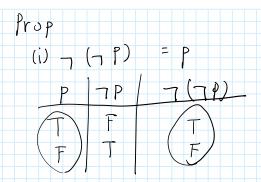
Th 2.1.5

P.Q. Y: 命題

- $(i) \neg (\neg P) = P$
- (ii) PVP = PNP = P
- (iii) PY & QVP PN6 = 81P
- (Vi) PV of = 79-> P

Prop

(i) - (-P) =



$$(Vi) Pyg = TP \rightarrow G$$

$$\Gamma P G T \sharp t \downarrow G G T,$$

$$= \Gamma \neg P G T (O\sharp), P G F J O H.$$

$$q \downarrow T (\Upsilon G 3 L D G G),$$

$$\neg P \rightarrow G$$

PV&Vr. PN&Ar

PV&Vr. PAGAr と車に書ける

> 同样 li · p, V -- V Pn Pin --- 1 Pn

注 2、1.8

命題 Pが Tであるて<u>仮定したてき.</u> 矛盾が生じるならは、Pは下でなければならない、体系が無矛盾ならば) このように、証明がさしにいう命題との否定コトを「て)仮定し、 種を導くことでアがてであると結論つける方法を「背理法という、

Th 21.9

P. 8、r:命题

- (i)  $PV(%(r) = (PV8) \wedge (PVr)$
- (ii) PA(&Vr) = (PA&) V(PAr)

Th 2.20

P. 9. 命题

- (i) 7 (PV8) = (7P) 1 (79)
- (11) -7 (PAB) = (7 P) V (78)

Th 2,2,1 (新偶)

P.8: 命題

P > & = T & -> TP